

は し が き

W・ケーラーによって行なわれた有名なチンパンジーの知能に関する実験があります。この実験は、ほんのわずかな猿だけが、バナナという直接的な目標から目を檻のなかに向けて、二本の棒をつなぎ合わせることを発見する、ということを示すものであります。

なぜもっとスポーツをしないのか。なぜたいせつな体育運動に興味をもてないのか。多くの体育の先生が、この問題に悩みながら解決への努力を続けている、ということを知っています。それはそれなりに意味のあることでありましょう。生徒を思ふ一念から生れた悩みの解決だからです。しかし、体育関係に限らず、ケーラーの猿が目を檻のなかに向けたように、全体の広い枠組みを考慮に入れて、問題の解決をはかってみるということも一つの方法ではないでしょうか。つまり、1つの問題にとりくむ前に、まず、その問題を一連の同心円の中心において見ることです。そうすることが、かえって目標への近道になるのではないかと、というようなことを日ごろ考えていました。

ところが、この論文をみると、その問題の捉えかた、処理のしかたは、スポーツや体育運動を生活の中心にすえて、生活を全体的な立場から考察がなされているではありませんか。少なくともそのような気構えと努力のあとがみえるのです。私はひじょうにうれしく思いました。研究された研修員の先生がたに心からの敬意を表するとともに、この1年間たいへんごくろうさまでした、と申し上げます。

文化史家であるヨハン・ホイジンガは、その著「ホモ・ルーデンスー人類文化と遊戯」の中で、文化はどこまで遊戯の性格をもっているのか、を検討し、人間文化は遊戯の中に一遊戯として一発発生し、展開してきたのだ、と述べてありますが、先生がたがもっている問題の解決に多くの示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。先生がたの今後におけるよりいっそうの精進をお願いいたします。

終わりに、各研修員に対し、校務多端のところを快くご協力とご支援を与えてくださった校長先生はじめ諸先生のご厚意に対し、深く感謝の意を表します。

昭和45年1月20日

新潟県立教育センター

所長 大黒山平